

内田康夫氏の同名小説の歴史ファンタジー、舞台「靖国への帰還」がいよいよ本日公演初日を迎える。

脚本演出家の深寅芥氏との奇縁で、小生も微力ながら監修と云う立場で参加させて貰うという得難い経験をした。ここ一月余りの稽古等を通じての所見を述べる。

<http://yasukunihenokikan.net/>

1 若い才能に感嘆!

若い俳優諸官はそれぞれ苦勞もしながら、大きな夢を抱いて頑張っている。そしてこの一月余り、彼等に接してみて感じたことは、所謂現代青年とは全く違う、真摯でひたむきに生きよう、芸の道を究めたいという情熱が溢れんばかりであるということだ。演出家の厳しい或いは高い要求を良く咀嚼し、自分のものとする、その吸収力が素晴らしい。

稽古当初からの彼等の伸び率も驚異的だ。作中の人物が正にそこに存在しているかのように思えるから大したものだ。作中人物をしっかり理解しているからだろう。

彼等も、この舞台を通じて何かを感じて貰ったはずだ。
大輪の花を楽しみにしている。

2 見せるべきはセットではない。

昨夜はゲネプロ(英語ではリハーサル!)であった。不思議な体験をした。豪華な或いはリアリスティックな大道具や小道具等の舞台セットは一切なし、あるのはパネルが数枚に、ユニットと呼ばれる四角い台形の箱だけである。これを自在に移動させるのだが、そこに実物があるかのような錯覚に陥る。勿論、少々の証明と音響の効果はあるのだろうが、それだけで迫真性は得られない。正に若い俳優さんの演技力が、パネルやユニットをさも実際の背景や小道具、大道具否それですらなく実物が存在するかのように見ているものの脳髓に浮かばせるのであろう。演技と云うのは、ここまで出来るようになるのか、不思議な気がする。演技力の偉大さを確認した思いだ。

3 原作と舞台化について

内田先生には、靖国神社に祀られている英霊の声なき声を見事に代弁して頂き、深寅氏は、よくぞこの難しいテーマを舞台化して頂いた。靖国問題に関心のある小生としては、衷心から御礼を申し上げたい。

4 多くの方々に!

監修としては至らぬ点が多々あったとは思いますが、舞台は演出、俳優そしてスタッフの方々の熱と意気によって極めて高い完成度に至った。願わくば、多くの方々に劇場に足を運んで頂き、彼等が何を訴えようとしているのかを実感して頂きたいものだ。(滝野川会館は、浅見光彦ファンならば、御承知だろうが、北区西ヶ原の平塚神社参道脇の平塚亭に近い。)

(写真は追ってアップしたい。)